

令和6年度卒業式

式辞 「わたしなんか」からも卒業しよう：京女 Spirits の継承

梅の花が馥郁と香るこの佳き日に、大谷範子名誉学長様、芝原玄記理事長・学園長様のご臨席を賜り、2024 年度卒業証書・学位記授与式を、ご家族ご同席の中で挙行できますことは、私たちすべての教職員にとって大きな喜びでございます。

京都女子大学大学院博士前期課程、修士課程を修了された皆さん、そして発達教育学部・家政学部・法学部・文学部・現代社会学部を卒業された皆さん、おめでとうございます。これまで皆さんが積み上げてこられたご努力とご研鑽に対して、心よりの敬意を表します。

ご臨席のご家族の皆さまにも、お嬢様が卒業・修了をお迎えになられましたことに心よりお祝いを申し上げます。お嬢様の成長を見守ってこられた、これまでの長年のご労苦に対して心よりの敬意を表させていただきます。また、育友会などを通して大学に賜りました様々なご支援についても、大学を代表いたしまして厚くお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

さて、ご卒業にあたり 4 年前を振り返ってみますと、入学式はかろうじて開催出来ましたが新型コロナウイルスの感染拡大は止む気配もなく、厳しい制限の中での挙行となりました。授業の多くもオンラインでの実施であり、クラブ活動も大学祭も全てが感染防止の厳しい制約が続く中での活動となりました。アルバイトもままならず経済的に厳しい状況に直面した方もおられたのではと推測いたします。

大学も皆さんを支援すべく、精いっぱい努力を尽くしてきましたが、それにも勝る学生の皆さんの困難を乗り越え、制限の中でも出来ることを見出し、前に進んでこられた力とその知恵に心より敬意を表します。学生の皆さんに助けられて、京都女子大学は 3 年にも及ぶ人類史上最大のパンデミックを大過なく乗り越えることができました。この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

今、皆さんの胸には、卒業の喜びと同時に明日から始まる新たな生活への期待と不安が交錯しているのではないのでしょうか。これまでの人生のほとんどは学校と家庭という守られた環境の中で過ごしてこられました。しかし今、社会という広い世界に自分の力で飛び立とうとしておられます。

そのような飛び立ちの時にあたり、皆さんのこれからの生き方が、個人的な問題であると同時に社会的な問題であること、特に日本社会にとっては皆さん方女性の生き方が極めて大きな意味を有していることをお話させていただきたいと思います。

先日も報道されましたが、昨年 1 年間の出生数は過去最低の 72 万人でした。少子化のス

ピードはこれまでの政府の見通しより 15 年も早く進んでいます。一体、日本の未来はどのような姿になるのでしょうか。

45 年先の 2070 年、皆さんは何歳になっておられますか？そう、65 歳を過ぎておられますね。その時日本の人口構造は、15 歳から 64 歳までのいわゆる生産年齢人口は 2,500 万人減少して約 3 分の 2 になる一方、高齢化率は約 9 % 高くなって 38.7% になります。その結果、1 人の老年人口を支える生産年齢人口は現在の 2 人から 1.3 人に減少します（注 1）。これが、皆さんが生きていかれる社会の現実です。

もう少し近い未来の事を申し上げますと、15 年後の 2040 年には労働力人口が 1,000 万人以上減少すると推計されています。この結果、日本の国が生産する富である GDP が、他の条件をおなじとすると約 57.8 兆円 10.8% 減少するというのです。これはとても重大なことです。あくまでも「他の条件が今と同じなら」という条件付きではありますが、あらゆる経済活動が停止に近い状態に陥ったコロナ禍による GDP の低下でも 6.2% だったことと比較していただくとその重大さがご理解いただけるでしょう（注 2）。

しかし、このグラフを見てください。男性の給与総額と女性の給与総額の差はなんと約 80 兆円あります。この理由は、女性の平均給与が低いこと、さらに働く女性の半数が非正規雇用でしかも年収 200 万円未満であることが原因です。逆に言えば、女性の所得の増加によって、日本経済は右肩上がり、V 字回復の可能性を秘めているのです。そして人口減少を乗り越える鍵はこの女性の生き方にあります（注 3）。

これで私の申し上げたいことがお分かりいただけたのではないのでしょうか。そうです、卒業後の社会での皆さんの生き方が、この 80 兆円の差を埋めることへの貢献に直結するので。そしてその結果は、翻って皆さん方自身の将来の幸福に影響してきます。

ただそれには様々な困難が伴うでしょう。残念ながら日本は、世界と比較しても決して女性が生きやすい社会とは言えません。しかし京都女子大学を今日、卒業される皆さんに、ぜひその日本社会にたとえ小さくてもよいので、風穴を開けていただきたいと思います。

大学で学ばれたように、本学の前身である京都女子高等専門学校の設立は、甲斐和里子、大谷籌子、九條武子の 3 人の女性たちの熱意と仏教婦人会 30 万人の会員の設立運動がきっかけとなっています。大谷籌子氏は、仏教の平等思想に根差して「男女平等機会均等」な社会の実現とその実現のための女性の高等教育機関の設立を念願されました。20 世紀初頭、時は明治民法が施行され、家父長制という男性支配の構造が制度化された時代でした。このような時代に、「男女平等機会均等」を言葉にされたその勇気に感慨を禁じ得ません。

さらにこの京都女子高等専門学校の最後の卒業生には、後に女性初の衆議院議長となった土井たか子氏がおられます。土井氏は 1969 年、衆議院の女性議員が僅か 8 人、女性議員率 1.3% の時代に初当選しています。その後、1986 年には当時の野党第 1 党であった社会党の女性党首に就任しました。もちろん女性として初の政党党首です。就任会見の「やるっきゃない」との言葉は、その年の新語・流行語大賞特別賞を授与されています。

彼女は、男性主体の政党であった社会党を「女性が支える政党に」との言葉でけん引し、1993年の政権交代を実現しました。その時の土井氏の言葉「山は動いた」は、多くの女性たちに社会が変わる、との希望をもたらししました。そして憲政史上初めて、三権の長である衆議院議長に就任しました。衆議院議長としては、世界の首脳と積極的に会談しとりわけ外交面で手腕を発揮しました。

このように、皆さんが学ばれた京都女子大学は、100年にわたるジェンダー平等推進の伝統の上に成り立っています。皆さんは、ジェンダー規範から相対的に自由な環境の中で、人格形成の一時期を過ごされました。大学では、「男子学生」「女子学生」ではなく、すべて「クラスメート」であり対等の仲間と意識してこられたでしょう。「女らしさ」に縛られることなく、のびのびと、自分らしく行動することの心地よさを経験してこられたと思います。

しかし就職されると、「男性社員」「女性社員」と性別に基づいて捉える世界に気づかれるかもしれません。しかし、京都女子大学で学び、経験されたジェンダー規範から自由な意識を忘れないでください。そして大谷籌子氏や土井たか子氏に流れるチャレンジする精神、「京女 Spirits」を継承してください。まずは身近な日常の、小さなことから変えていきましょう。「私なんか」からは、今日を限りに卒業して、京都女子大学の卒業生として胸を張ってそれぞれの道を邁進してください。

卒業生・修了生の皆さまのこれから歩まれる前途が、洋々たるものであることを念じまして式辞といたします。

本日は誠にめでとうございます。

(注1) 内閣府『令和6年版高齢社会白書』3頁図1-1-2

(注2) 林伴子・新村太郎(2022)「女性活躍とマクロ経済」(内閣府第3回「女性と経済」に関する勉強会) <https://www.kantei.go.jp/jp/content/000116413.pdf>

(注3) 同上

2025年3月15日

京都女子大学 学長 竹安栄子